

春宵弓張月

後編

四

十八年

^ 13  
3692  
10



門 13  
號 3692  
卷 10

曲亭翁原稿

西馬老人綴

弓張月  
廼宵榮  
十九篇

東京書房

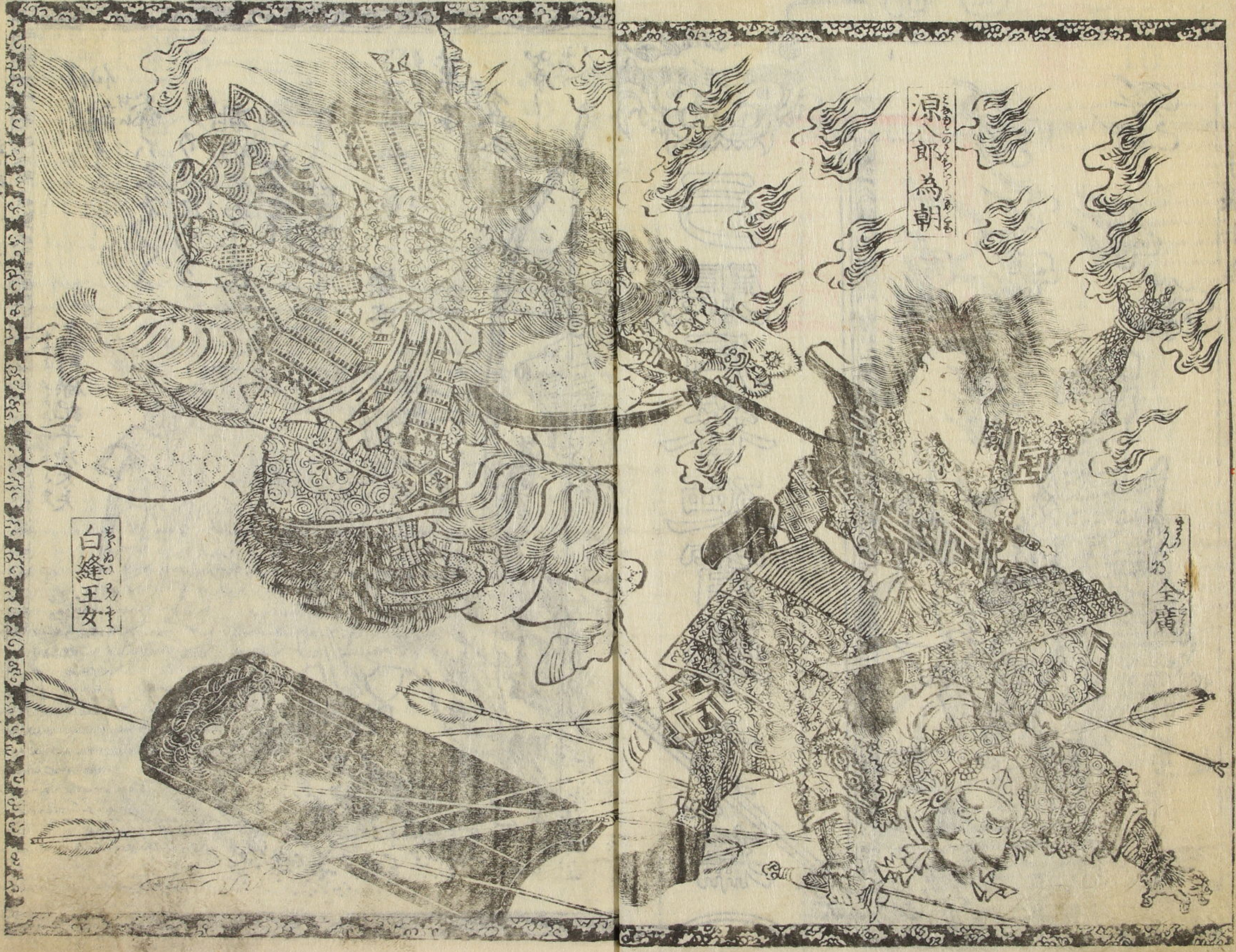
文昇堂熊谷梓

弓張月廼宵榮十九篇

棟孫



弓張十九



源八郎為朝

白縫王女

源全廣

仙託了

爺志をく

めりたる

批のたを

和子れ

いさほ

樂亭

八町磔紀平次大夫

菓子  
盆小

形や  
柳の

其角

巴麻嶋神童



破垣や

麻子の

通ひ  
曾良

為朝末丁  
舞天九

松壽の御事  
○松壽の御事  
松壽の御事  
松壽の御事  
松壽の御事

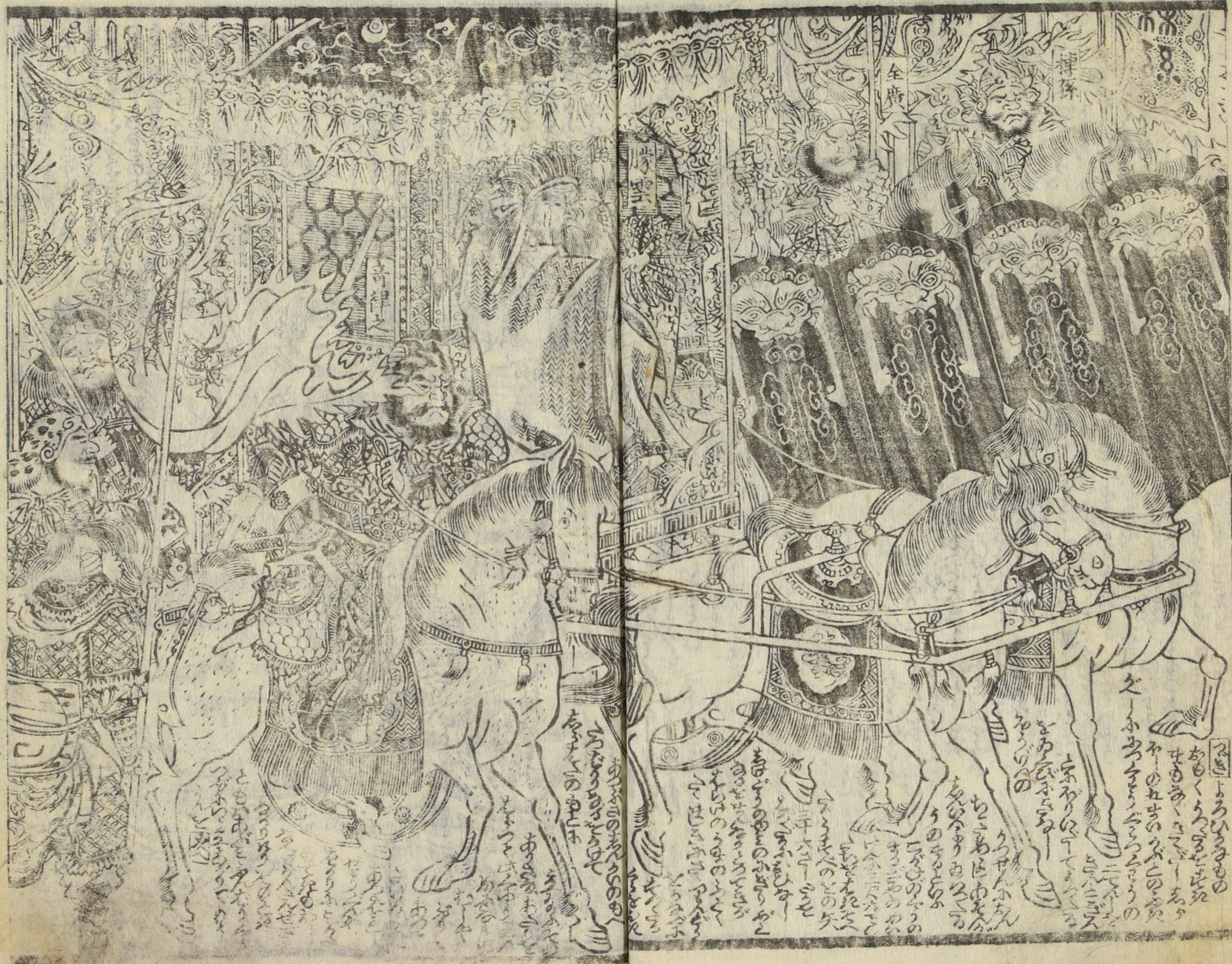


松壽の御事  
○松壽の御事  
松壽の御事  
松壽の御事  
松壽の御事  
松壽の御事



為朝の御事  
○為朝の御事  
為朝の御事  
為朝の御事  
為朝の御事  
為朝の御事

松壽の御事  
○松壽の御事  
松壽の御事  
松壽の御事  
松壽の御事  
松壽の御事



五十六

五十六

全席

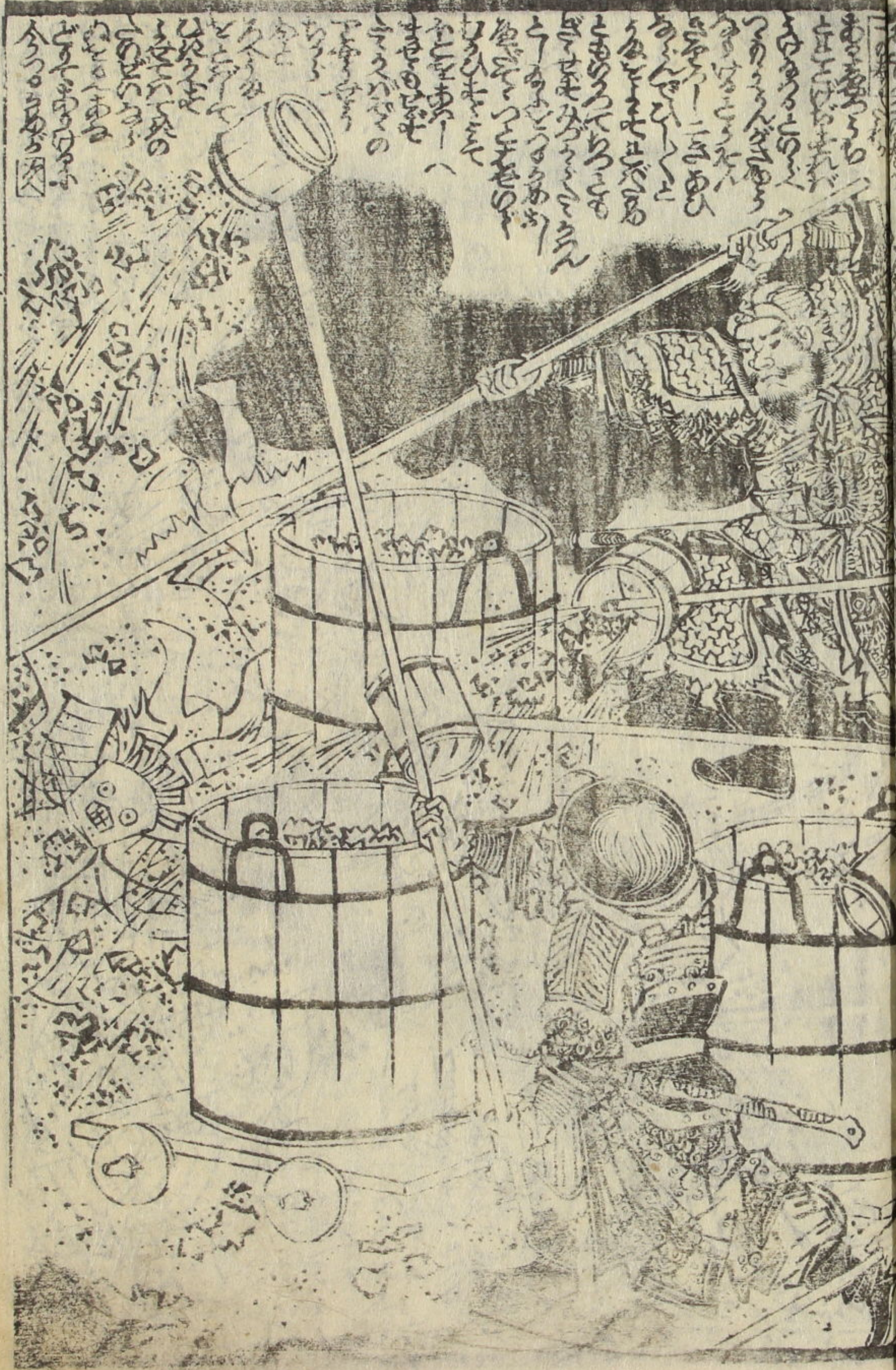
御座

此の御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の

おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の

おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の

おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の  
おのけの御座の御座の



長十









Handwritten text in the top right margin.

Vertical column of handwritten text on the right side of the page.

Vertical column of handwritten text at the bottom right of the page.

Vertical column of handwritten text on the left side of the page, above the horse.

Vertical column of handwritten text on the left side of the page, below the horse.

松壽 (Matsunosue)

為朝 (Yasumasa)

Vertical column of handwritten text in the top left margin.

Vertical column of handwritten text on the right side of the page, below the standing warrior.





白縫玉女

儀輪

田平

此の物語は、白縫玉女と田平の恋物語である。白縫玉女は、源氏物語にも登場する人物で、源氏物語の源氏と白縫玉女との恋物語が有名である。この物語は、白縫玉女が源氏と恋をしたこと、そして源氏が白縫玉女を娶ったこと、そして源氏が白縫玉女を殺したことが描かれている。この物語は、源氏物語の源氏と白縫玉女との恋物語の続編である。

田平は、源氏物語にも登場する人物で、源氏物語の源氏と田平との恋物語が有名である。この物語は、田平が源氏と恋をしたこと、そして源氏が田平を殺したことが描かれている。この物語は、源氏物語の源氏と田平との恋物語の続編である。

この物語は、源氏物語の源氏と白縫玉女との恋物語の続編である。源氏は、白縫玉女と恋をしたこと、そして源氏が白縫玉女を殺したことが描かれている。この物語は、源氏物語の源氏と白縫玉女との恋物語の続編である。

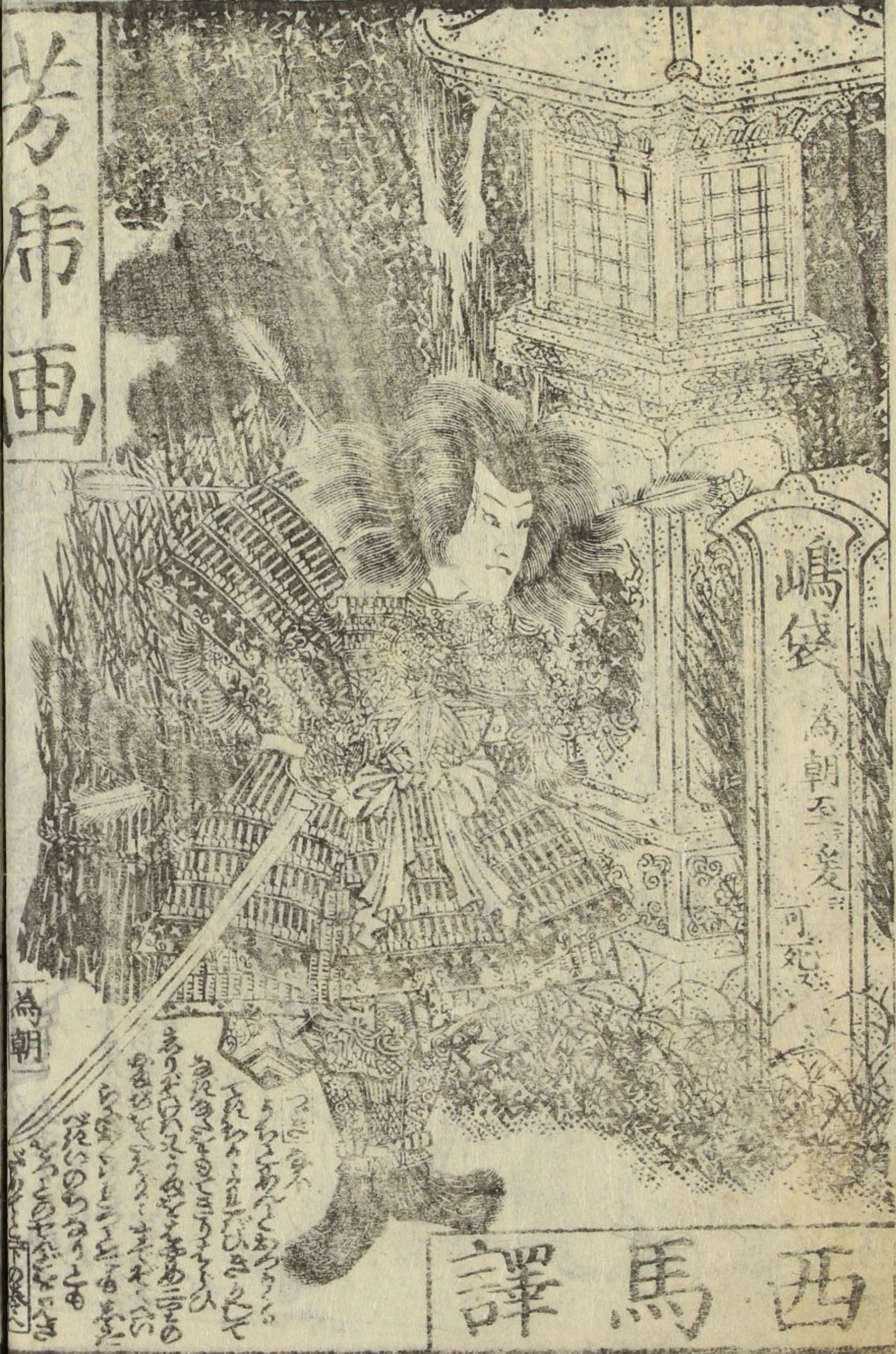
田平は、源氏物語にも登場する人物で、源氏物語の源氏と田平との恋物語が有名である。この物語は、田平が源氏と恋をしたこと、そして源氏が田平を殺したことが描かれている。この物語は、源氏物語の源氏と田平との恋物語の続編である。



弓長十九

十一

# 芳席画



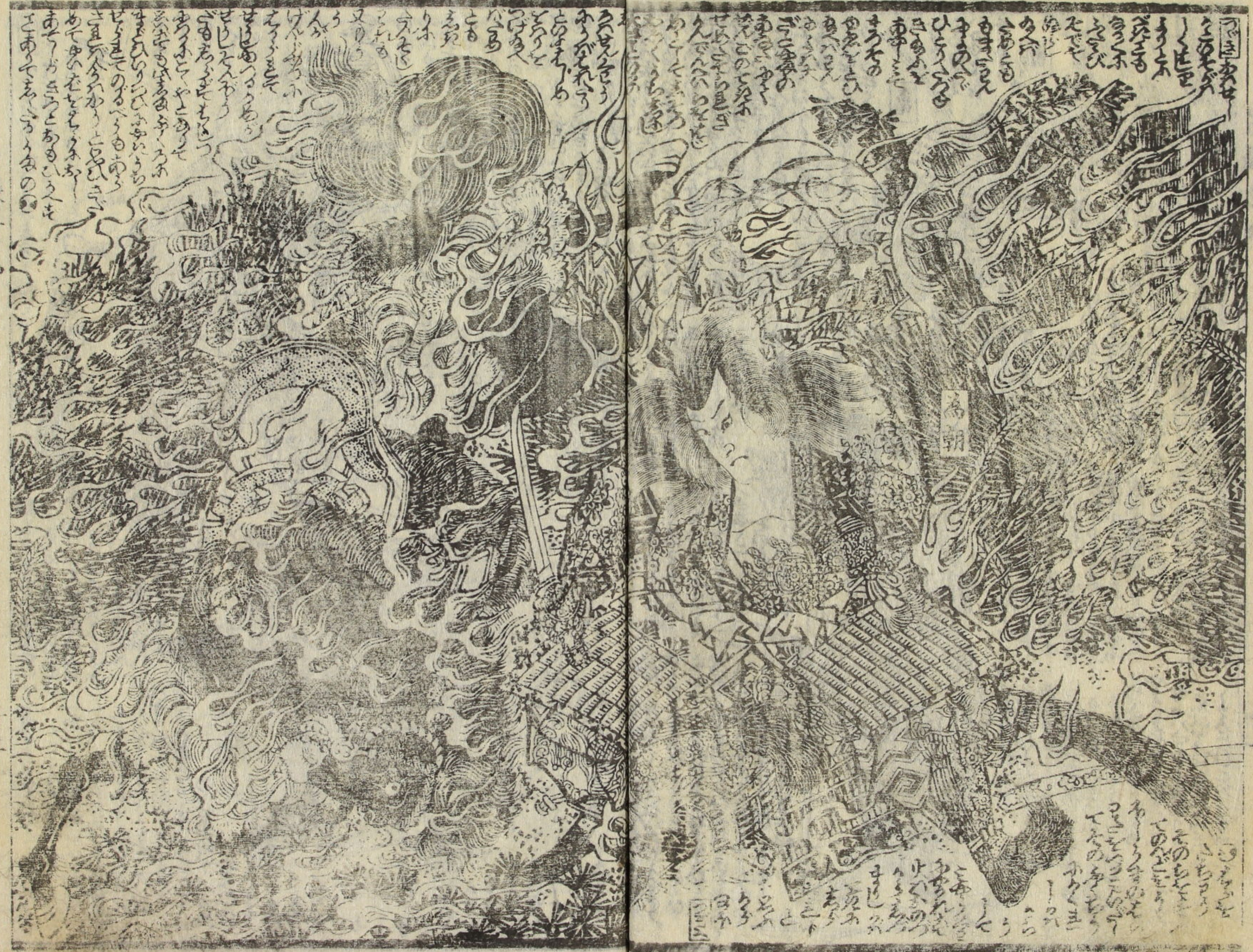
中洲十州

嶋袋

為朝五ノ後  
可死

## 西馬譯

三三三



つばきあき  
まのま  
うら  
おの  
あまの

ひら  
あま  
ま  
あま

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

又く人々をさしおきてはまゝに  
さしおきてはまゝに  
さしおきてはまゝに



儀翰  
さしおきてはまゝに  
さしおきてはまゝに  
さしおきてはまゝに

田千



さしおきてはまゝに  
さしおきてはまゝに  
さしおきてはまゝに  
さしおきてはまゝに





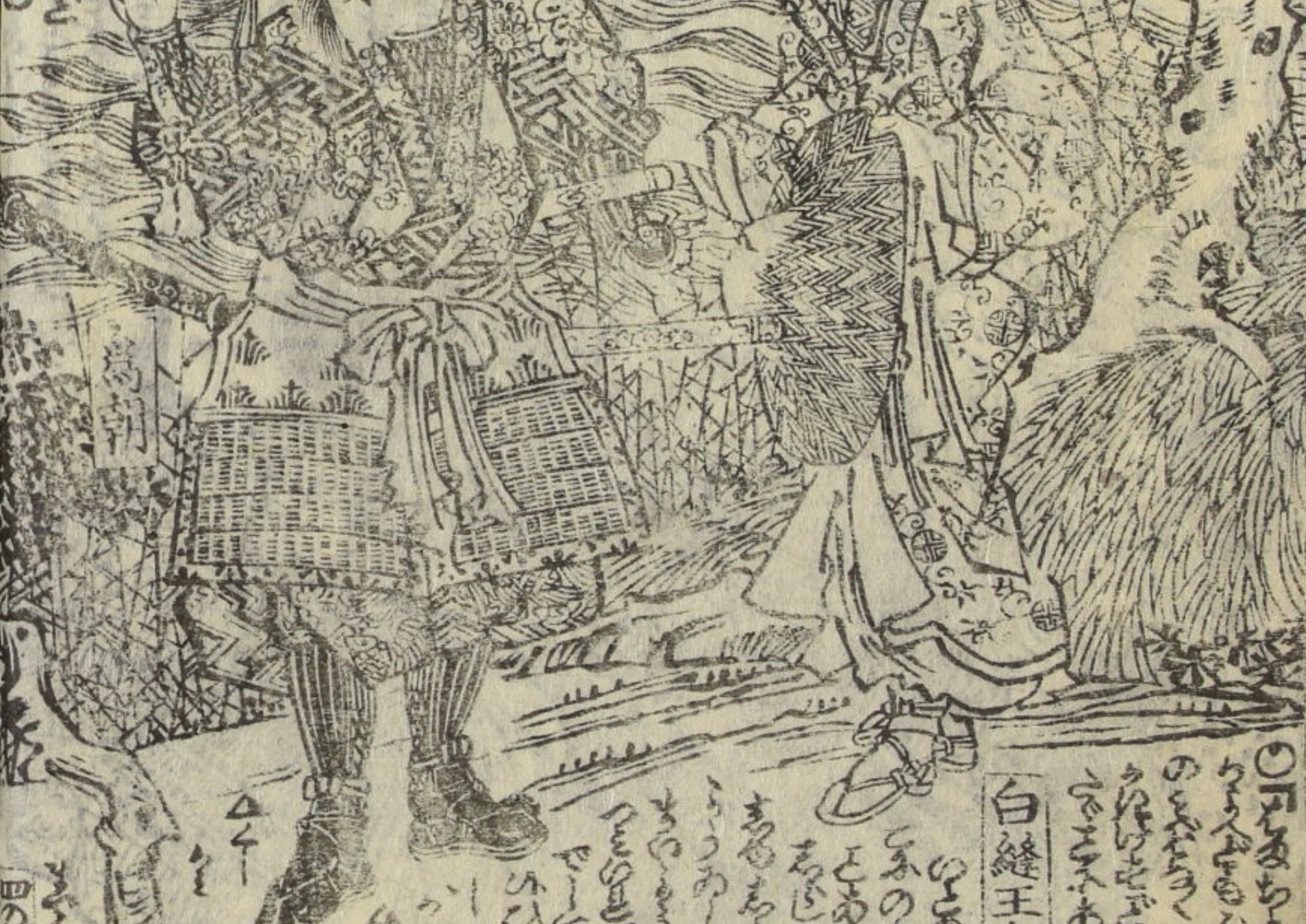


Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, located at the top of the left page.



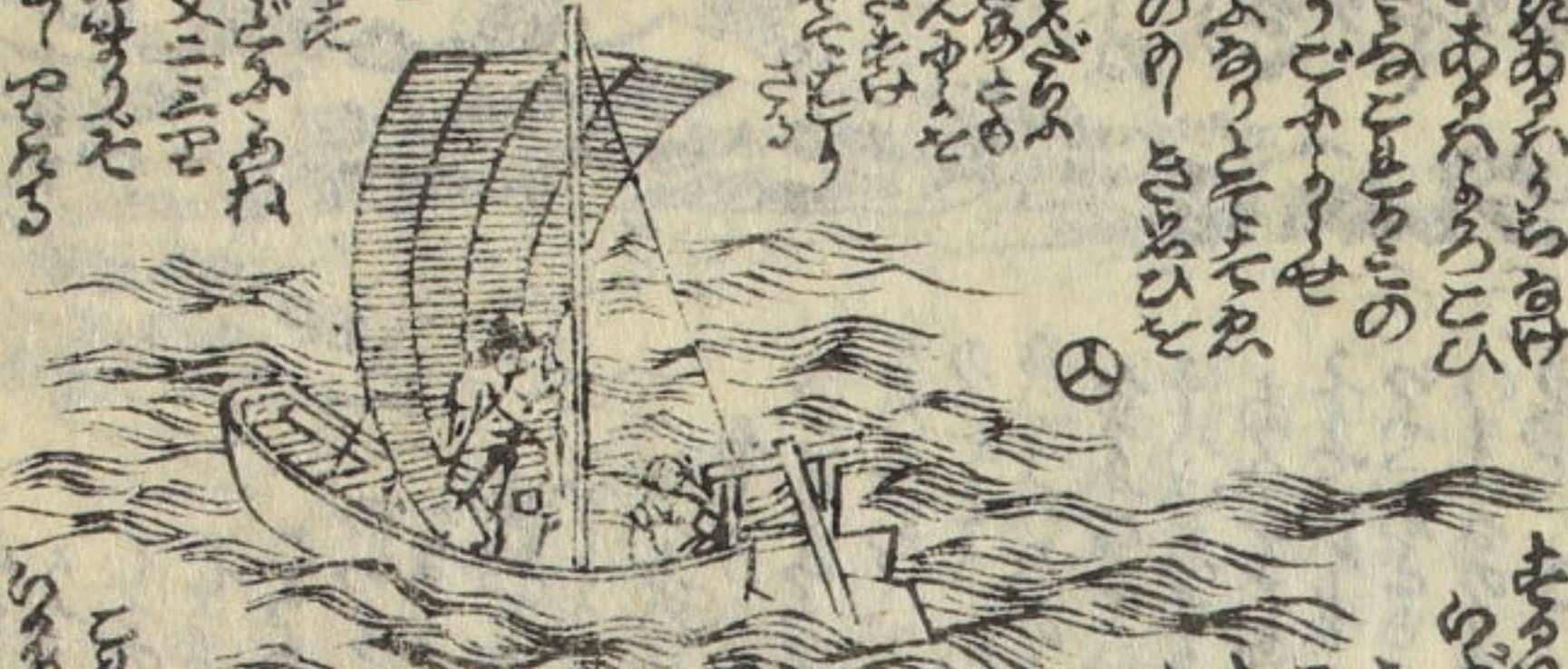
Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page, below the illustration.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the right page, above the illustration.

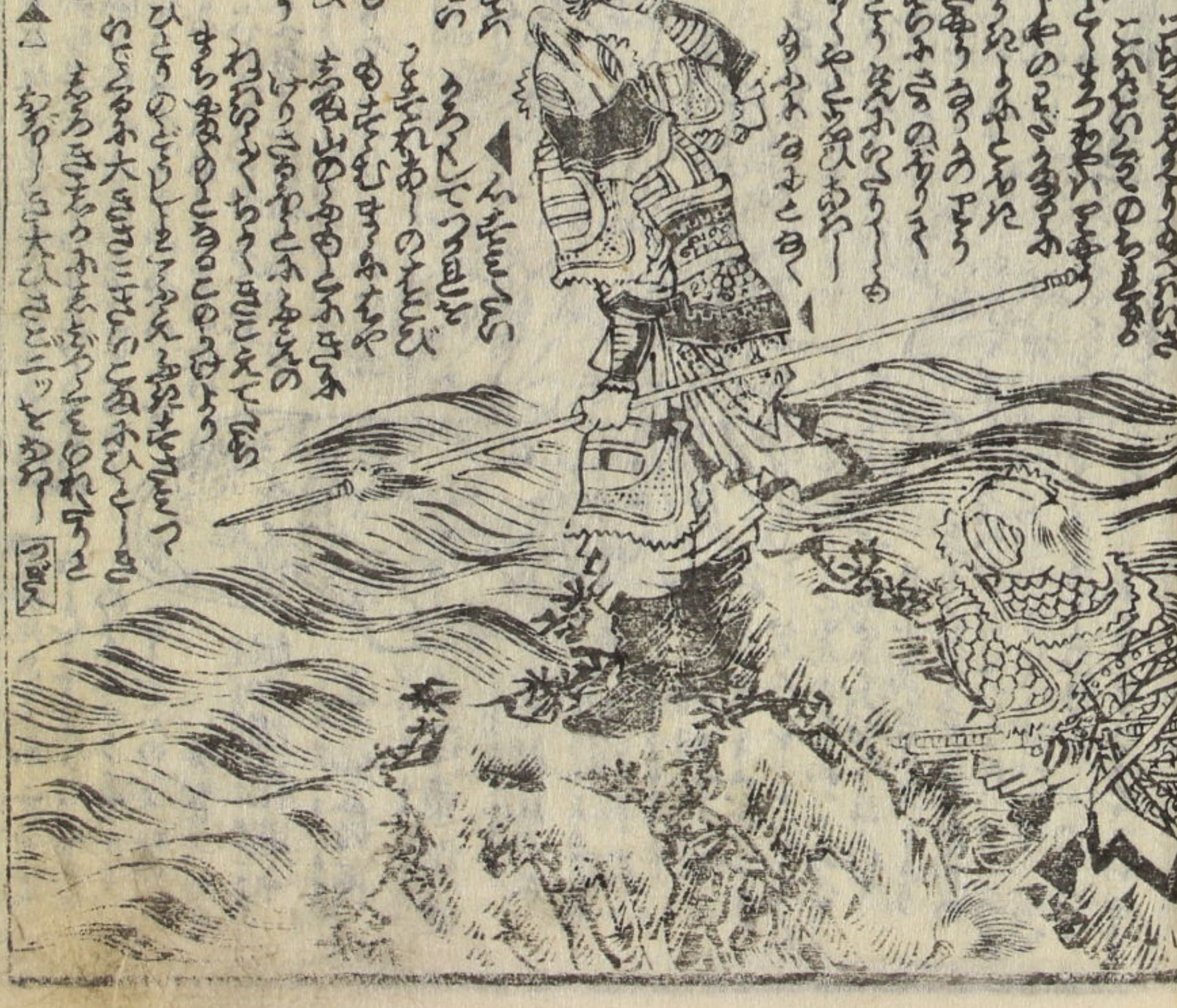


Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the right page, below the illustration.

Handwritten text in a medieval script, likely Latin or German, located at the top of the left page. The text is arranged in several columns and includes some decorative initials.



Handwritten text in a medieval script, continuing from the top of the page. It is arranged in several columns and includes some decorative initials.



Handwritten text in a medieval script, located at the bottom of the left page. It is arranged in several columns and includes some decorative initials.

Handwritten text in a medieval script, likely Latin or German, located at the top of the right page. The text is arranged in several columns and includes some decorative initials.

Handwritten text in a medieval script, continuing from the top of the page. It is arranged in several columns and includes some decorative initials.



Handwritten text in a medieval script, located at the bottom of the right page. It is arranged in several columns and includes some decorative initials.



Handwritten Japanese text in vertical columns, including the title '白縫王女' (Shirunoi no Onna) and various verses.

霞迎清影何  
時照我庭  
春便覺孤  
去還東溟達  
亭仙禽再  
眠柳閑花遠木



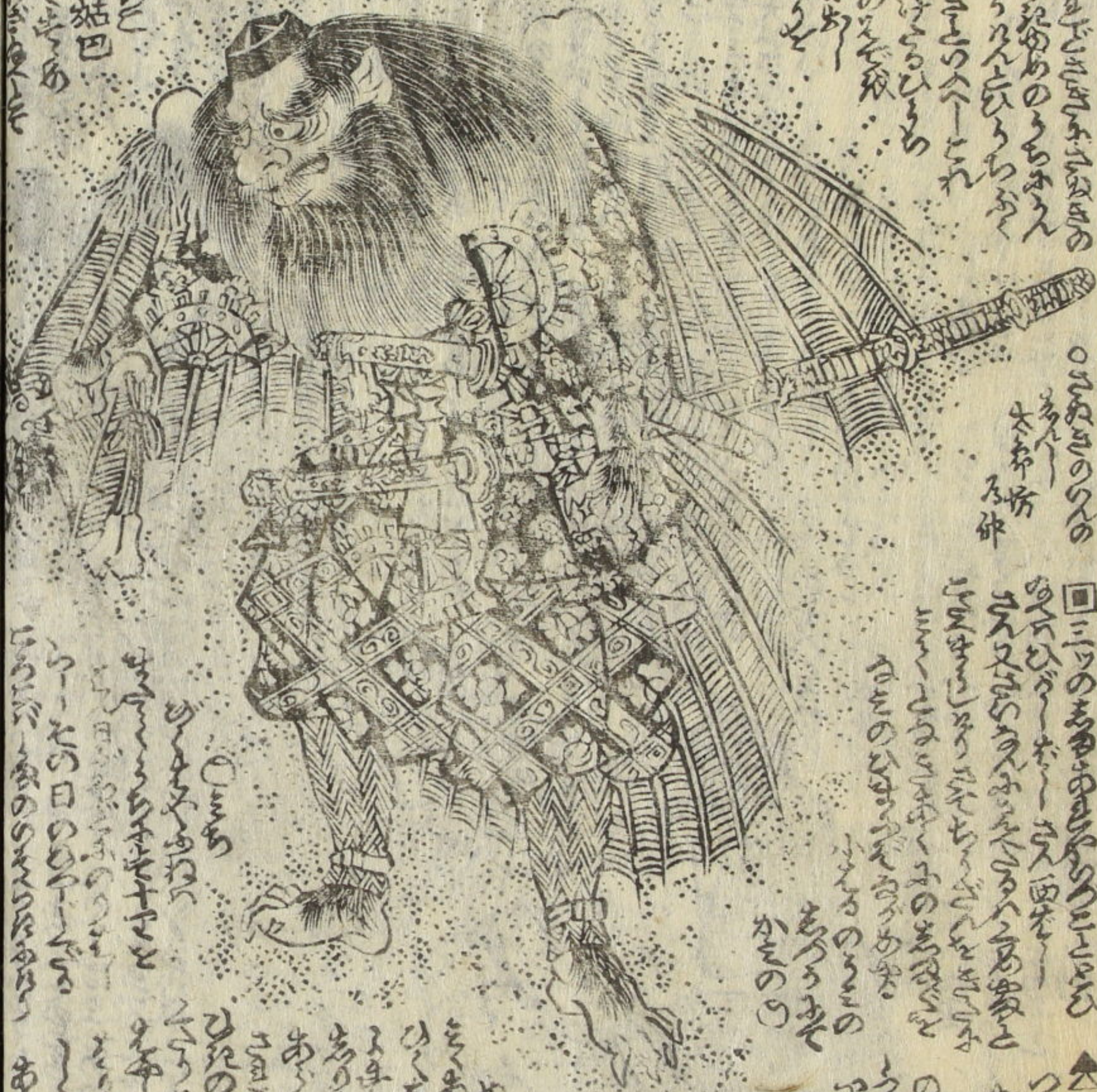
Handwritten Japanese text in vertical columns at the top of the left page.

鳥朝  
Handwritten Japanese text in vertical columns, including the title '鳥朝' (Tori no Asa).

鳥朝  
Handwritten Japanese text in vertical columns, including the title '鳥朝' (Tori no Asa).



Handwritten text in a cursive script, likely a Japanese dialect or a specific form of shorthand, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, located at the top of the left page.

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page.



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or a list of items related to the illustration. The text is written in a cursive style (sōsho) and includes several boxed characters, possibly identifying specific elements in the scene.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the commentary or list from the left page. The text is dense and follows the same cursive style as the left page.



板元の口叙引れ智り小申上の  
 一先以四方の着皮極益市機張克を遊遊身思契以迄而私言 出夜の  
 弓張月春通宵榮年之編々副以起け廿編小を鉢大尾の宿を兄積後  
 何片梳吹の終却て長く廿八編々全終巻巻に書きとるんさせの同  
 何卒是迄以未ら下の遠方極張り五辨以辨以下重反身帯れ廿七編  
 近の画工國輝小は是の如十八編より画工芳亮と相成ゆる 出精致し  
 漫させ中い九席以披露中上の雲就九席偷盜傳とや 新喜楽紙面  
 六編書を出版仕水本村の外也意と叶難有仕合と存存小松九度才七編の  
 佐者魯々画工豊國は貞政策に漫させ格別骨折の若且其家帯入  
 身皇院入のる弓張月日換以貞以存利ら成下賣出レ當日より  
 永為く此求る程傷と存頼以欽白

万延二年 辛酉 春

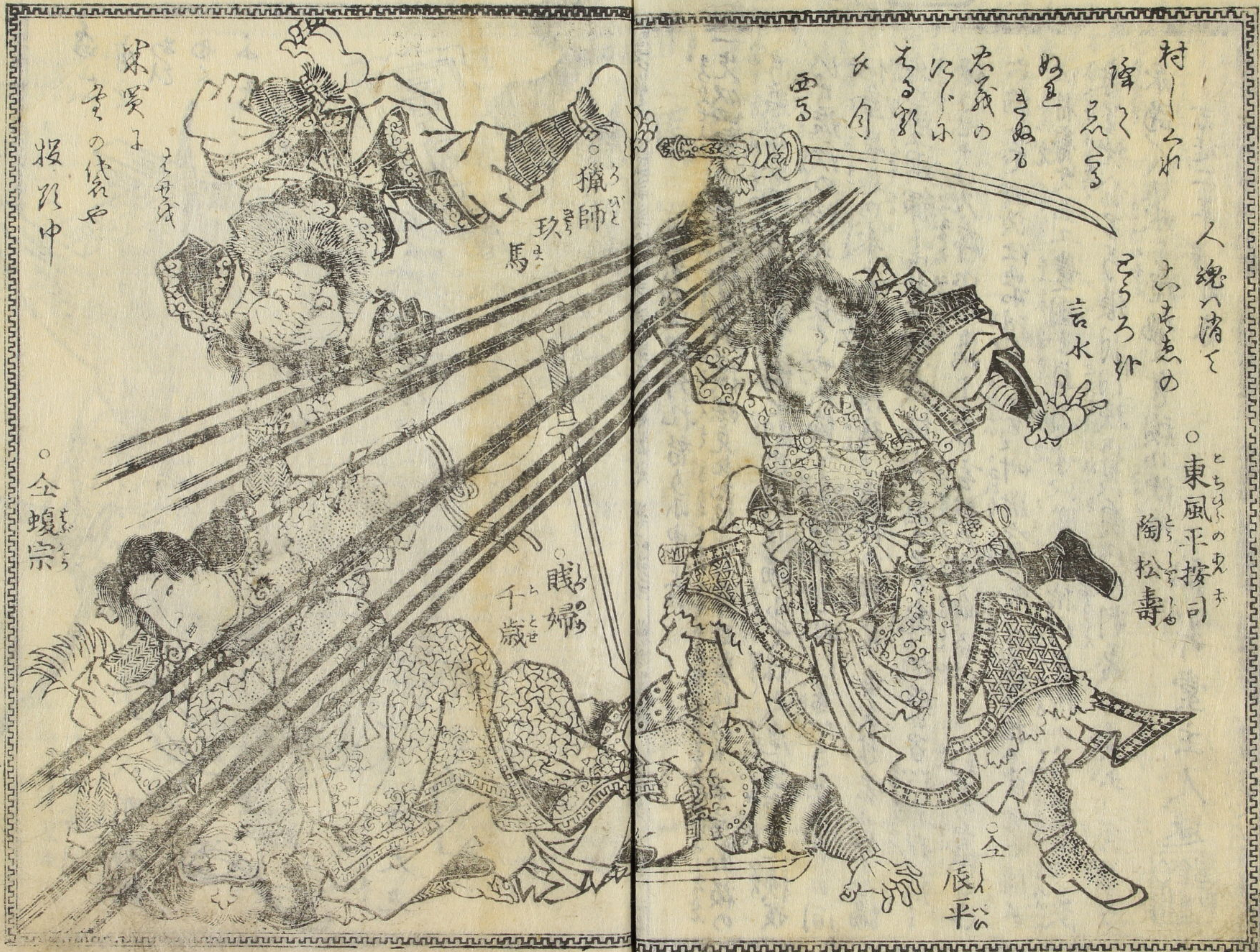
錦昇堂主人述

万延二年 辛酉 春



# 西馬譚芳虎画





村一々れ  
降く  
ねま  
まぬ  
大義の  
にふ  
る歌  
女月  
西馬

人總の清て  
よき志の  
ころ外  
言水  
○東風平按司  
陶松壽

全  
辰平

獵師  
玖馬

賤婦  
千歳

宋愛子  
その侍名や  
投中

全蝦宗

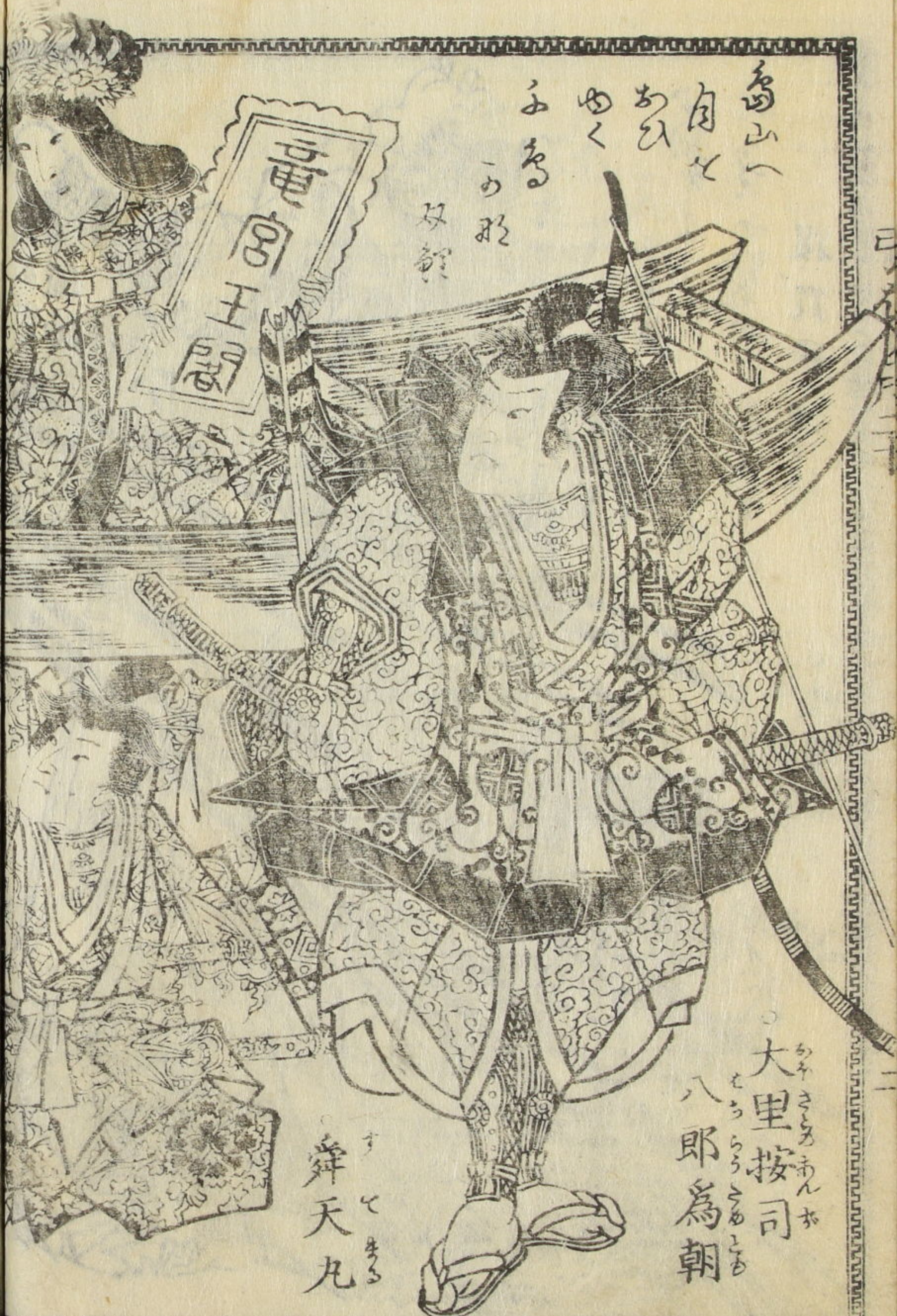
蒙雲退治



白縫王女

浮世子  
七あれぬねよ  
そくくもも  
看るハ美人の  
こがしをそ  
のれ  
ゆき

八間磔  
紀平治  
大夫



竜宮王閻

高山一  
月七  
あひ  
ゆく  
ふる  
一のれ  
双額

大里按司  
八郎為朝

舜天丸



うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ



うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ

白狐の妻女  
かたての  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ

鳥と

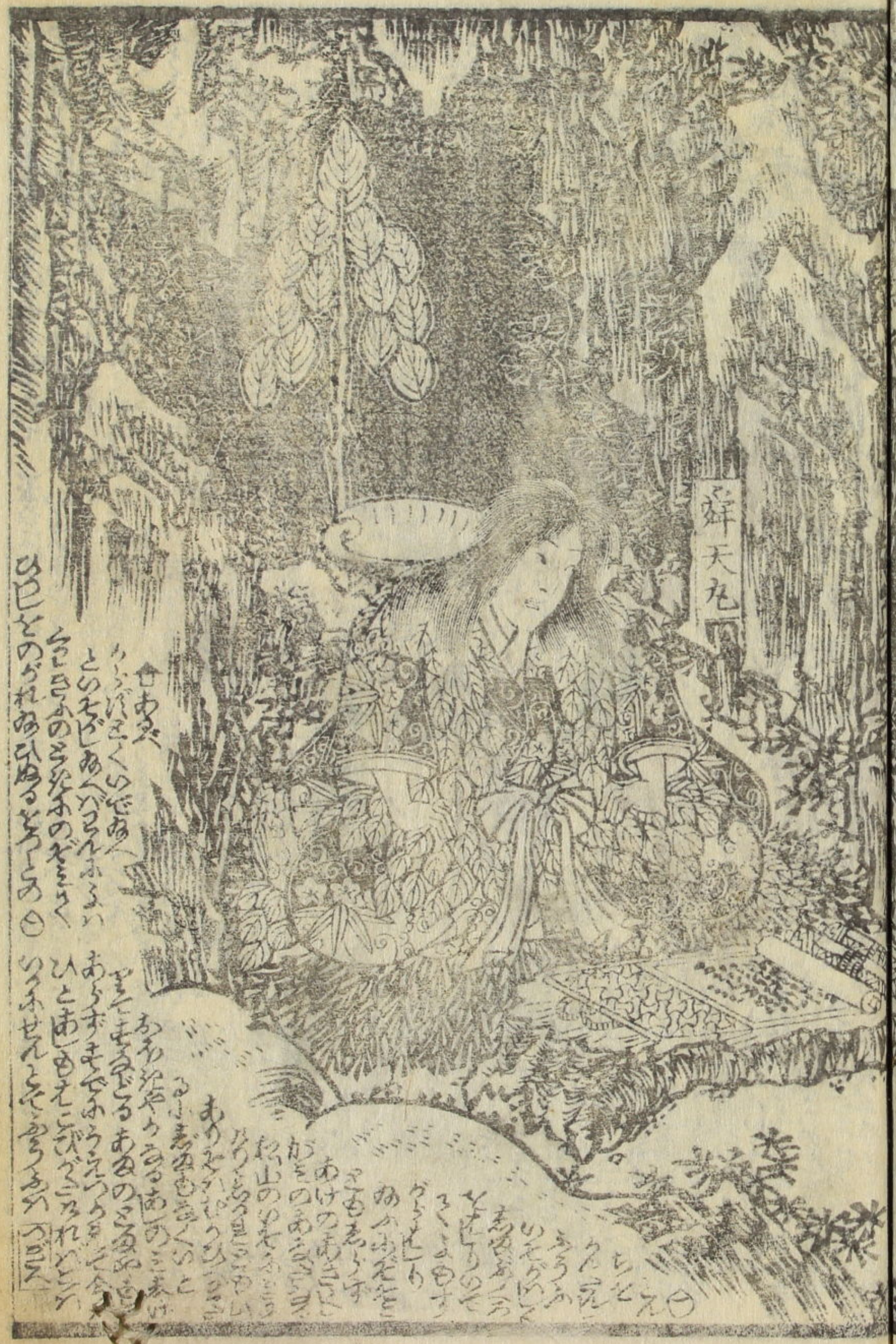
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ



うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ  
うきつれ



三才  
 図會  
 卷之三  
 絶平治  
 三才図會  
 卷之三  
 絶平治



天九  
 三才  
 図會  
 卷之三  
 天九

此の巻は、  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下

此の巻は、  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下

此の巻は、  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下



此の巻は、  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下

此の巻は、  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下



此の巻は、  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下

此の巻は、  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下  
 神代卷下

神代卷下

神代卷下



白姫の王女

為さむ

一 白姫の王女  
 二 為さむ  
 三 櫻木  
 四 藤木  
 五 橘木  
 六 梅木  
 七 桃木  
 八 梨木  
 九 桜木  
 十 藤木  
 十一 橘木  
 十二 梅木  
 十三 桃木  
 十四 梨木  
 十五 桜木  
 十六 藤木  
 十七 橘木  
 十八 梅木  
 十九 桃木  
 二十 梨木  
 二十一 桜木  
 二十二 藤木  
 二十三 橘木  
 二十四 梅木  
 二十五 桃木  
 二十六 梨木  
 二十七 桜木  
 二十八 藤木  
 二十九 橘木  
 三十 梅木  
 三十一 桃木  
 三十二 梨木  
 三十三 桜木  
 三十四 藤木  
 三十五 橘木  
 三十六 梅木  
 三十七 桃木  
 三十八 梨木  
 三十九 桜木  
 四十 藤木  
 四十一 橘木  
 四十二 梅木  
 四十三 桃木  
 四十四 梨木  
 四十五 桜木  
 四十六 藤木  
 四十七 橘木  
 四十八 梅木  
 四十九 桃木  
 五十 梨木  
 五十一 桜木  
 五十二 藤木  
 五十三 橘木  
 五十四 梅木  
 五十五 桃木  
 五十六 梨木  
 五十七 桜木  
 五十八 藤木  
 五十九 橘木  
 六十 梅木  
 六十一 桃木  
 六十二 梨木  
 六十三 桜木  
 六十四 藤木  
 六十五 橘木  
 六十六 梅木  
 六十七 桃木  
 六十八 梨木  
 六十九 桜木  
 七十 藤木  
 七十一 橘木  
 七十二 梅木  
 七十三 桃木  
 七十四 梨木  
 七十五 桜木  
 七十六 藤木  
 七十七 橘木  
 七十八 梅木  
 七十九 桃木  
 八十 梨木  
 八十一 桜木  
 八十二 藤木  
 八十三 橘木  
 八十四 梅木  
 八十五 桃木  
 八十六 梨木  
 八十七 桜木  
 八十八 藤木  
 八十九 橘木  
 九十 梅木  
 九十一 桃木  
 九十二 梨木  
 九十三 桜木  
 九十四 藤木  
 九十五 橘木  
 九十六 梅木  
 九十七 桃木  
 九十八 梨木  
 九十九 桜木  
 一百 藤木  
 一〇一 橘木  
 一〇二 梅木  
 一〇三 桃木  
 一〇四 梨木  
 一〇五 桜木  
 一〇六 藤木  
 一〇七 橘木  
 一〇八 梅木  
 一〇九 桃木  
 一一〇 梨木  
 一一一 桜木  
 一一二 藤木  
 一一三 橘木  
 一一四 梅木  
 一一五 桃木  
 一一六 梨木  
 一一七 桜木  
 一一八 藤木  
 一一九 橘木  
 一二〇 梅木  
 一二一 桃木  
 一二二 梨木  
 一二三 桜木  
 一二四 藤木  
 一二五 橘木  
 一二六 梅木  
 一二七 桃木  
 一二八 梨木  
 一二九 桜木  
 一三〇 藤木  
 一三一 橘木  
 一三二 梅木  
 一三三 桃木  
 一三四 梨木  
 一三五 桜木  
 一三六 藤木  
 一三七 橘木  
 一三八 梅木  
 一三九 桃木  
 一四〇 梨木  
 一四一 桜木  
 一四二 藤木  
 一四三 橘木  
 一四四 梅木  
 一四五 桃木  
 一四六 梨木  
 一四七 桜木  
 一四八 藤木  
 一四九 橘木  
 一五〇 梅木

一 為さむ  
 二 櫻木  
 三 藤木  
 四 橘木  
 五 梅木  
 六 桃木  
 七 梨木  
 八 桜木  
 九 藤木  
 十 橘木  
 十一 梅木  
 十二 桃木  
 十三 梨木  
 十四 桜木  
 十五 藤木  
 十六 橘木  
 十七 梅木  
 十八 桃木  
 十九 梨木  
 二十 桜木  
 二十一 藤木  
 二十二 橘木  
 二十三 梅木  
 二十四 桃木  
 二十五 梨木  
 二十六 桜木  
 二十七 藤木  
 二十八 橘木  
 二十九 梅木  
 三十 桃木  
 三十一 梨木  
 三十二 桜木  
 三十三 藤木  
 三十四 橘木  
 三十五 梅木  
 三十六 桃木  
 三十七 梨木  
 三十八 桜木  
 三十九 藤木  
 四十 橘木  
 四十一 梅木  
 四十二 桃木  
 四十三 梨木  
 四十四 桜木  
 四十五 藤木  
 四十六 橘木  
 四十七 梅木  
 四十八 桃木  
 四十九 梨木  
 五十 桜木  
 五十一 藤木  
 五十二 橘木  
 五十三 梅木  
 五十四 桃木  
 五十五 梨木  
 五十六 桜木  
 五十七 藤木  
 五十八 橘木  
 五十九 梅木  
 六十 桃木  
 六十一 梨木  
 六十二 桜木  
 六十三 藤木  
 六十四 橘木  
 六十五 梅木  
 六十六 桃木  
 六十七 梨木  
 六十八 桜木  
 六十九 藤木  
 七十 橘木  
 七十一 梅木  
 七十二 桃木  
 七十三 梨木  
 七十四 桜木  
 七十五 藤木  
 七十六 橘木  
 七十七 梅木  
 七十八 桃木  
 七十九 梨木  
 八十 桜木  
 八十一 藤木  
 八十二 橘木  
 八十三 梅木  
 八十四 桃木  
 八十五 梨木  
 八十六 桜木  
 八十七 藤木  
 八十八 橘木  
 八十九 梅木  
 九十 桃木  
 九十一 梨木  
 九十二 桜木  
 九十三 藤木  
 九十四 橘木  
 九十五 梅木  
 九十六 桃木  
 九十七 梨木  
 九十八 桜木  
 九十九 藤木  
 一百 橘木

白雉王女



為朝

白雉王女の  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる

白雉王女の  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる

為朝  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる

紀平治



紀平治  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる

紀平治  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる

紀平治  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる

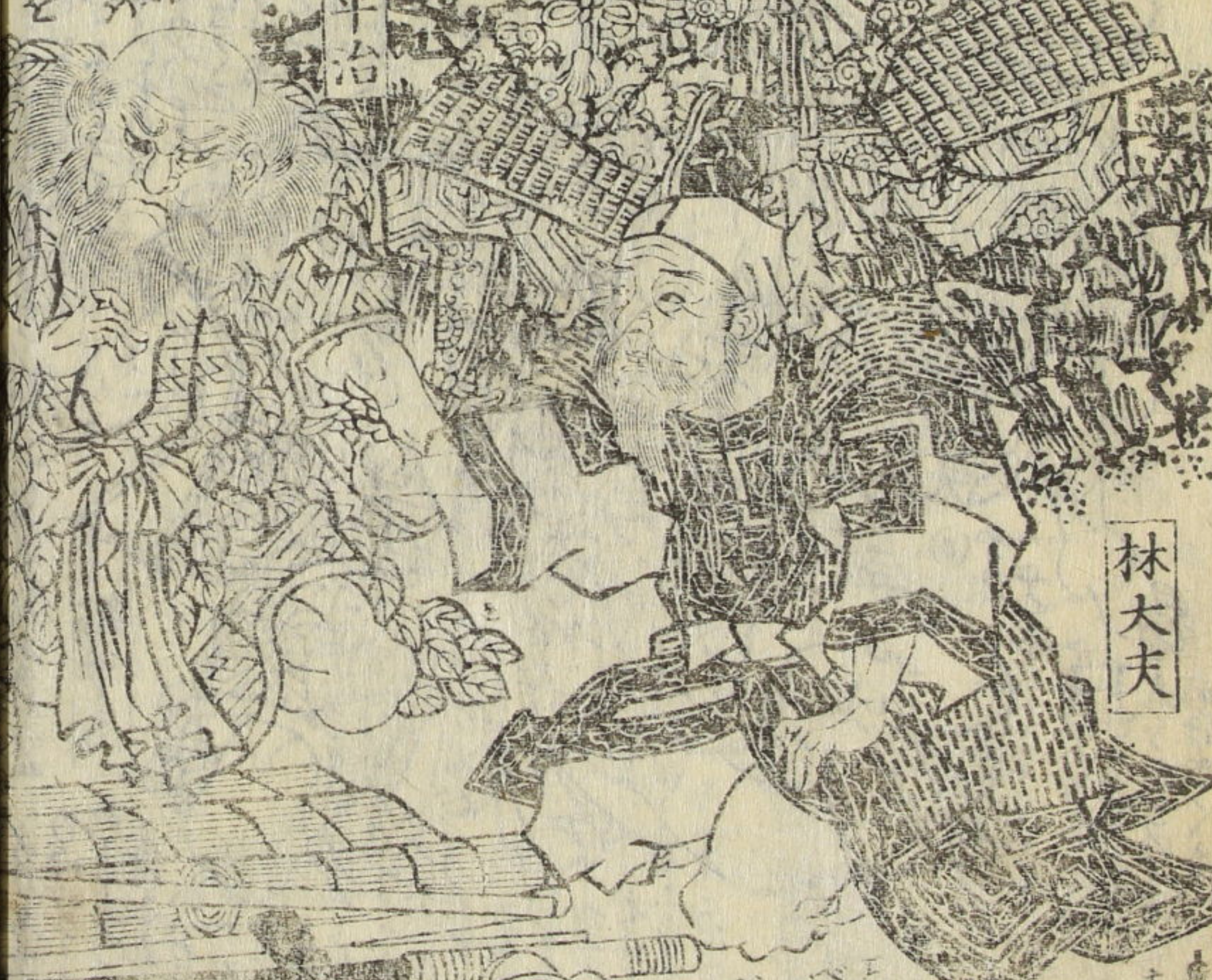
天九

天九  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる  
 御衣は白雉の  
 毛織りなる

鳥ともの

ついでに志保山のくさぶさの  
 かすうり小三ごころのくさぶさの  
 まるごとくをさうさうくちり入  
 りのたまごのくさぶさのくさぶさの  
 りあつりあ人をさうさ  
 だんごをさうさうさ  
 うちまきさうさうさ  
 あいさうさうさ  
 とせうさうさ  
 わりさうさ  
 とめさうさ  
 ゆづねさうさ  
 せんとさうさ  
 まるごとくさうさ  
 入のたまごさうさ  
 せんとさうさ  
 日つりさうさ  
 おさうさ  
 かのひさりのさうさ  
 くのむさうさ  
 のあさうさ  
 されさうさ  
 やらさうさ  
 おさうさ  
 かさうさ  
 いさうさ

紀平治  
 かのひさりのさうさ  
 くのむさうさ  
 のあさうさ  
 されさうさ  
 やらさうさ  
 おさうさ  
 かさうさ  
 いさうさ



林大夫

舜天丸

あつりあ人をさうさ  
 だんごをさうさうさ  
 うちまきさうさうさ  
 あいさうさうさ  
 とせうさうさ  
 わりさうさ  
 とめさうさ  
 ゆづねさうさ  
 せんとさうさ  
 まるごとくさうさ  
 入のたまごさうさ  
 せんとさうさ  
 日つりさうさ  
 おさうさ  
 かのひさりのさうさ  
 くのむさうさ  
 のあさうさ  
 されさうさ  
 やらさうさ  
 おさうさ  
 かさうさ  
 いさうさ



白澤王女

あつりあ人をさうさ  
 だんごをさうさうさ  
 うちまきさうさうさ  
 あいさうさうさ  
 とせうさうさ  
 わりさうさ  
 とめさうさ  
 ゆづねさうさ  
 せんとさうさ  
 まるごとくさうさ  
 入のたまごさうさ  
 せんとさうさ  
 日つりさうさ  
 おさうさ  
 かのひさりのさうさ  
 くのむさうさ  
 のあさうさ  
 されさうさ  
 やらさうさ  
 おさうさ  
 かさうさ  
 いさうさ





為一の

白狐の王女

天の神

紀平治

清影何時照我庭  
 逢春便覺孤霞迴  
 仙禽再去還東溟  
 眠柳閑花遠水亭  
 三日月二十

紀平治  
 西馬録  
 芳胤画



西馬録  
 芳胤画



從是北西 恩納嶽林鹿行路  
從是東南 越來間切街道



白の王女



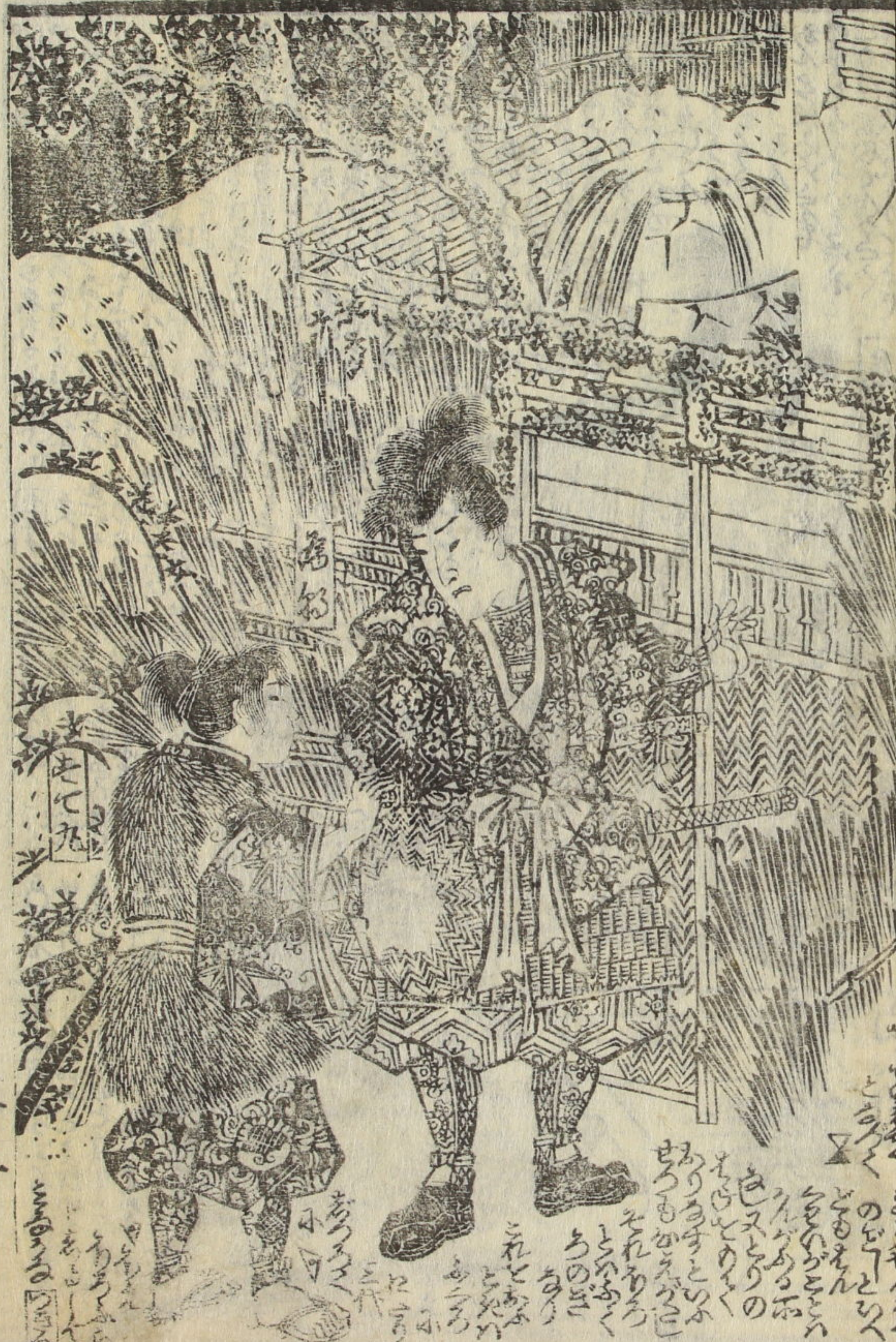
白平治



白の王女

Handwritten Japanese text, likely a commentary or a transcription of a story, surrounding the illustrations.

Handwritten Japanese text at the top of the page, possibly providing context or a preface to the illustrations.



あつたて

きて九

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて



あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて









白蛇王女  
紀平治  
ちんせ  
ついでに

四

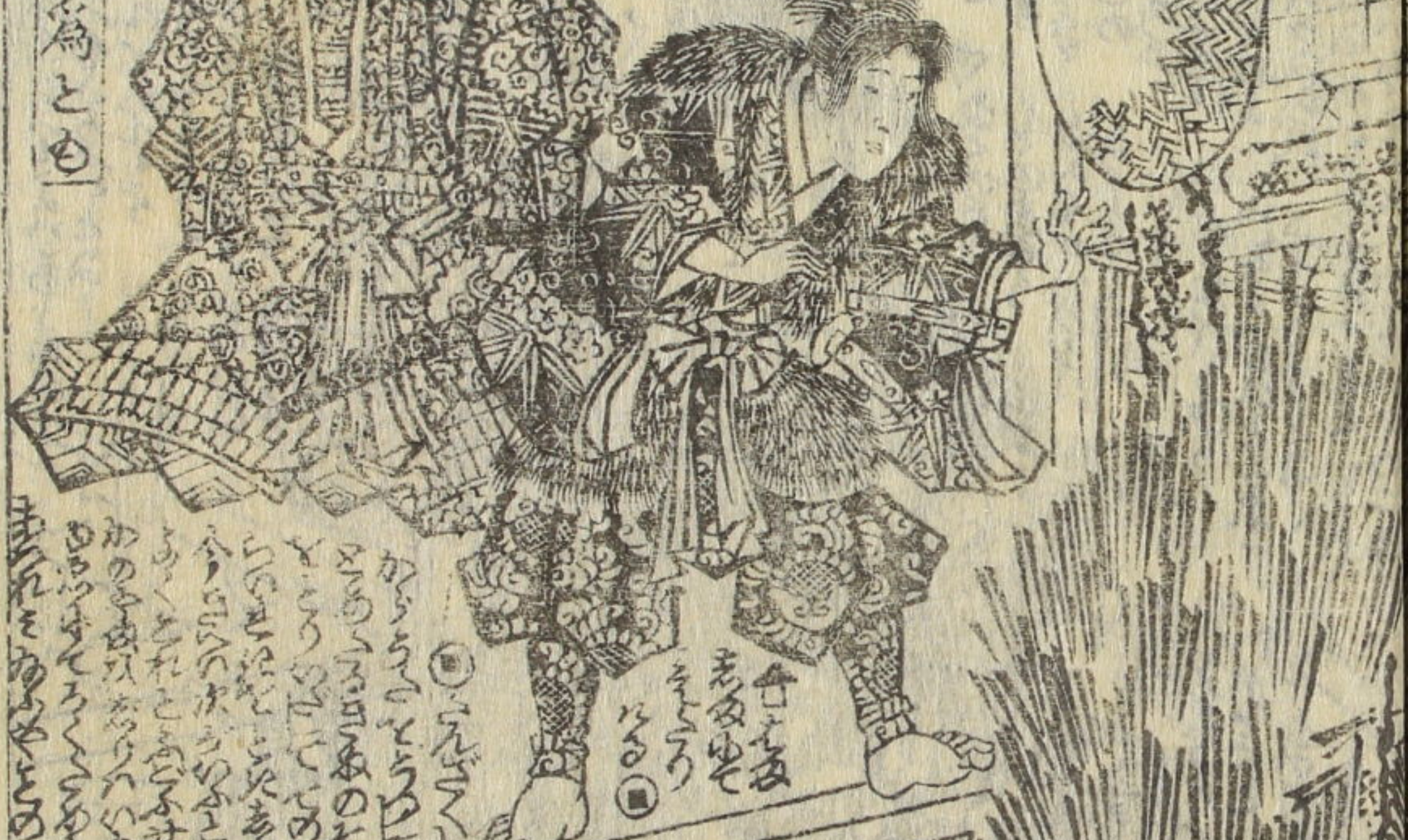
白鷺王女 白鷺王女 白鷺王女

白鷺王女 白鷺王女 白鷺王女



白鷺王女 白鷺王女 白鷺王女

白鷺王女 白鷺王女 白鷺王女



白鷺王女 白鷺王女 白鷺王女



Handwritten text in Japanese, arranged in vertical columns. The text appears to be a commentary or a narrative related to the illustration. Some characters are enclosed in small boxes, possibly indicating specific names or titles.



Handwritten text in Japanese, arranged in vertical columns. The text appears to be a commentary or a narrative related to the illustration. Some characters are enclosed in small boxes, possibly indicating specific names or titles.





# 西馬綴

爲との

△  
△  
△

△  
△  
△

△  
△  
△

Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the top of the page.



備書交來

# 芳肅画

Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located on the left side of the page.



